

めぐみイエス・キリスト教会

2021年4月25日(日)第Ⅳ主日礼拝
週報「通算第554号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌376「いかに汚れたる」	p. 604
【交読文】	No.6 詩篇第22篇	p. 883
【賛美Ⅱ】	新聖歌127「墓の中に」	p. 178
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル賛美No.11「ラザロ」	
【聖書朗読】	ヨハネの福音書21章9節～14節(新約p. 229)	
【礼拝説教】	《朝の食事において》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書21章9節～14節】

21:9 こうして彼らが陸地に上がると、そこには炭火がおこされていて、その上には魚があり、またパンがあるのが見えた。

21:10 イエスは彼らに「今捕った魚を何匹か持って来なさい」と言われた。

21:11 シモン・ペテロは舟に乗って、網を陸地に引き上げた。網は百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったのに、網は破れていなかった。

21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ、朝の食事をしなさい。」弟子たちは、主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか」とあえて尋ねはしなかった。

21:13 イエスは来てパンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。

21:14 イエスが死人の中からよみがえって、弟子たちにご自分を現されたのは、これですでに三度目である。

●ポイント1. 主イエス様の弟子たちへの約束とは？

※マタイの福音書6章31節～32節「山上の垂訓から」(新約p.11上段)

6:31「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。」

●ポイント2. 主はパンを取り、魚も同じようにされたこととは？

※ルカの福音書9章12節～17節「五千人の給食」 (新約p.131上段)

●ポイント3. シモン・ペテロの確信とは？

※使徒の働き10章39節～41節「コルネリオへの証言(新改訳二版)」

10:39「私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムとで行なわれたすべてのことの証人です。人々はこの方を木にかけて殺しました。

10:40 しかし、神はこのイエスを三日目によみがえらせ、現われさせて下さいました。

10:41 しかし、それはすべての人々にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられて後、ご一緒に食事をしました。」

※ヨハネの黙示録3章20節「ラオディキアの教会に」(新約p.496上段)

3:20 見よ、私は戸の外に立ってたたいている。だれでも、私の声を聞いて戸を開けるなら、私はその人のところに入って彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。

◎先週のメッセージの概要【ガリラヤ湖にて(八日目から後の出来事)】

《ヨハネ20章と21章の間には、数日が経過しています。しかし8日目に、主イエスがトマスに現われた後、十一使徒はガリラヤへ出発しました。

ガリラヤでは、主イエスはなかなか姿を見せません。そうこうしているうちに、食べ物が尽きてしまいます。ペテロは「私は漁に行く」と言い、自分の持ち舟を出したのです。ヤコブとヨハネ、トマスとナタナエルと他の二人の弟子たちも同行し、夜通し試みたのですが、何も捕れませんでした。すると、岸边から人影が、「子どもたちよ、食べる魚がありませんね。」「ありません。」「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます。」その言葉を聞いて、網を下ろすと、おびただしい数の魚が掛かったのです。

実は、三年ほど前に、ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネは、同じような体験をしています。ヨハネは、その事を思い出しました。「主です。」

ペテロは、その声を聞くと湖に飛び込んで泳いで行きます。他の弟子たちは、魚の入った網を引いて戻って来ます。そして残りの使徒たちも合流し、主と共に炭火を囲みながら、楽しい食事のひと時が始まります。

ここから、私たちが学ぶべき事は、主が「山上の垂訓」において、約束されたことを思い起こさせる為なのです。『「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、天の父が知っておられます。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。』と。私たちが、まず求めなければならないのは、「神の国と神の義」なのです。神の国とは、主イエスが治めている国のことです。すなわち主イエス様ご自身です。そして「神の義」とは「十字架」です。主は言われます。『「誰でも私について来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従って来なさい」』と。

私たちには、一人一人に使命が与えられています。大切な事は、今与えられている状況と環境において、主の証し人となることなのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は5月2日(日)教会にて通常通り行ないます。聖書勉強会・祈り会は5月12日(水)各家庭にて行ないます。5月5日(水)はお休みします。